

新得町学校施設長寿命化計画

令和元年 8 月

新得町教育委員会

目 次

1. 学校施設の長寿命化計画策定の背景・目的等	
1－① 背景	1
1－② 目的	1
1－③ 計画期間	1
1－④ 対象施設	2
2. 学校施設の目指すべき姿	
(1) 安全・安心な学校施設	2
(2) 学習活動への適応性に配慮した学校施設	2
(3) 地域連携の拠点施設	2
3. 学校施設の現状	
3－① 対象施設一覧	3
3－② 児童生徒数の変化	3
3－③ 学校施設の配置状況	5
3－④ 施設関連経費の推移	6
3－⑤ 学校施設の保有状況	7
3－⑥ 今後の維持・更新コスト（従来型）	8
3－⑦ 学校施設の老朽化状況の実態	9
3－⑧ 今後の維持・更新コストの把握（長寿命型）	10
4. 学校施設整備の基本的な方針	
4－① 学校施設の長寿命化計画の基本方針	11
4－② 学校施設の規模・配置計画等の方針	11
4－③ 改修等の基本方針	12
5. 長寿命化の実施計画	
5－① 改修等の優先順位付け	12
5－② 今後5カ年の実施計画	12
6. 長寿命化計画の継続的運用方針	
6－① 情報基盤の整備と活用	13
6－② 推進体制等の整備	13
6－③ 計画の見直しとフローアップの方針	13

1. 学校施設の長寿命化計画策定の背景・目的等

1-① 背景

本町の小中学校の施設（以下「学校施設」という。）は、昭和40年代後半から昭和50年代中頃にかけて順次建設され、多くが40年を経過しているため、施設の老朽化が進んでいます。

老朽度が激しく、また、耐震度判定で基準を満たさなかった学校施設2校は、平成21年、平成25年にそれぞれ改築をしましたが、残る3校は老朽化対策を行う必要があります。

平成25年11月に国において策定された「インフラ長寿命化基本計画」では、国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や、予算の平準化を図る方向性が打ち出され、これを踏まえて文部科学省は、平成27年3月に「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

本町においては、平成29年3月に国の計画を踏まえた「新得町公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設全体の状況を把握した上で、中長期的な視点から公共施設の最適な配置を図るための方針を整えたところです。

今後、公共施設の総合的なマネジメントのもと、学校施設の維持管理や大規模改修等を進め、学びの場の安全・安心を確保しながら、長寿命化に向けた取り組みを行っていく必要があります。

1-② 目的

本計画は、児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることや、適切な学習環境を維持・確保するため、学校施設全体の状況や老朽化への対応、課題等を把握し、将来に向けての中長期的な維持管理等を計画的に実施するとともに、長寿命化により町財政負担の縮減や平準化を図ることを目的とします。

なお、本計画は、「新得町公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」という。）に基づく学校施設の個別施設計画として位置づけます。

1-③ 計画期間

本計画の計画期間は、中長期的な期間を見据え平成31年度から令和15年度までの15年間とし、計画の進捗状況のフォローアップ等を踏まえて5年ごとに計画の見直しを行います。

1-④ 対象施設

本計画の対象施設は、平成31年4月1日現在に設置している小中学校で、以下の5施設とします。

種 別	学 校 名
小 学 校	新得町立新得小学校、新得町立屈足南小学校
中 学 校	新得町立新得中学校、新得町立屈足中学校
小中併置校	新得町立富村牛小中学校

2. 学校施設の目指すべき姿

(1) 安全・安心な学校施設

学校施設は、児童生徒が学び、集団生活をする場であるとともに、災害時の避難施設、地域のコミュニティ施設、学校開放による一般市民の利用など様々な役割を果たす重要な施設であるため、第一に安全で安心して利用できる施設であることが求められます。

また防犯や障がい者への配慮も必要であり、ユニバーサルデザインやバリアフリー化を意識するとともに、特別に支援を必要とする児童生徒にも配慮した施設整備を目指します。

(2) 学習活動への適応性に配慮した学校施設

児童生徒が意欲的に学習活動や社会性を育む活動に取り組みやすい空間を目指すほか、習熟度に応じたきめ細かな指導に対応した設備、ICT教育への対応など学習環境の向上を図ります。

(3) 地域連携の拠点施設

本町では、地域の子どもを地域全体で守り育てることを理念とした「全町教育」活動を推進しており、学校・家庭・地域それぞれの役割と連携を支える施設、PTA活動への配慮、コミュニティ・スクールの活動推進への対応など地域連携の拠点としての役割を担う施設整備を進めます。

3. 学校施設の現状

3-① 対象施設一覧

本町には、新得市街地に小学校、中学校がそれぞれ1校、屈足市街地に小学校、中学校がそれぞれ1校、富村牛地区に小中併置校が1校、合わせて5校の学校施設があり、それぞれの現状は以下のとおりです。

図表 施設一覧

(令和元年5月1日現在)

名 称		住 所	延床面積 (㎡)	建築 年度	児童生徒数（人）		学級数（学級）	
					通常学級 在籍者数	特別 支援	通常 学級	特別 支援
小 学 校	1 新得小学校	西 2 条北 1 丁目	6,430.0	S54	184	19	7	5
	2 屈足南小学校	屈足柏町 2 丁目	5,094.0	S56	41	4	4	3
	3 富村牛小学校	トムラウシ 257	1,074.0	H21	10	1	3	1
小学校 計			12,598.0		235	24	14	9
中 学 校	1 新得中学校	西 4 条南 1 丁目	4,191.0	H25	86	9	3	3
	2 屈足中学校	屈足緑町西 4 丁目	4,236.0	S51	18	3	3	3
	3 富村牛中学校	トムラウシ 257	140.0	H21	5	0	1	0
中学校 計			8,567.0		109	12	7	6
小・中学校 合計			21,165.0		344	36	21	15

3-② 児童生徒数の変化

新得町の小中学校の児童生徒数の推移は、昭和35年5月1日現在の3,169人(小学生 2,184人、中学生 985人)をピークに、年々減少をしてきており、平成30年5月1日現在では、387人(小学生 263人、中学生 124人)でピーク時と比較して87.8%減となっています。

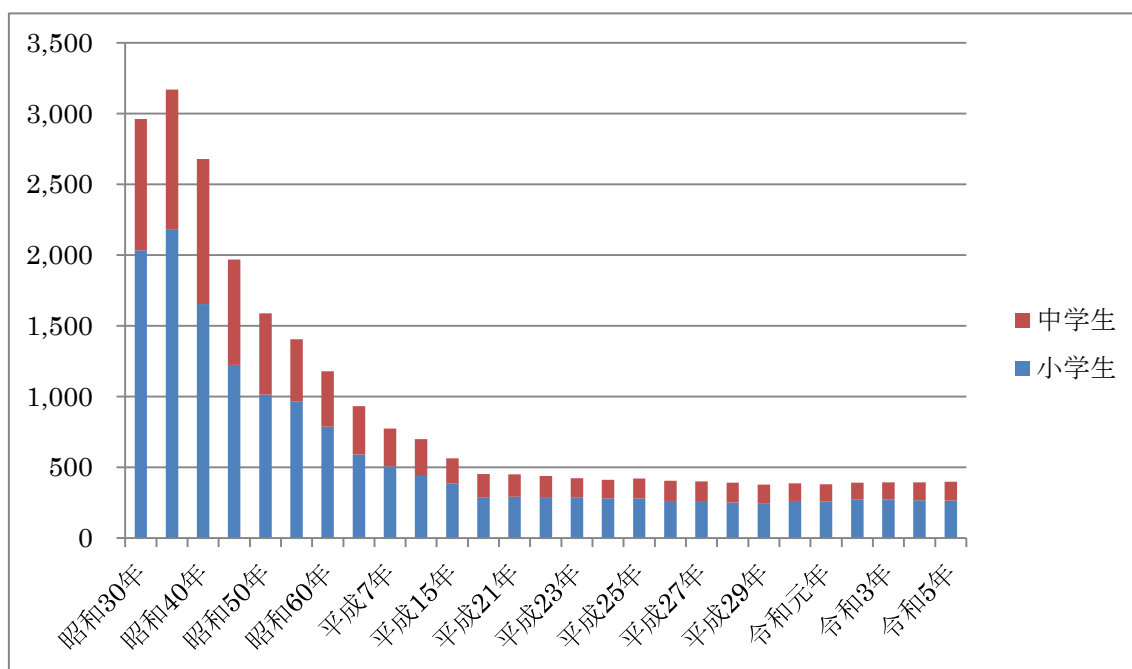
社会経済情勢の移り変わりとともに、過疎化による人口減少や少子高齢化が進んでおり、今後の見通しも減少傾向にあると考えられます。

児童・生徒数の推移

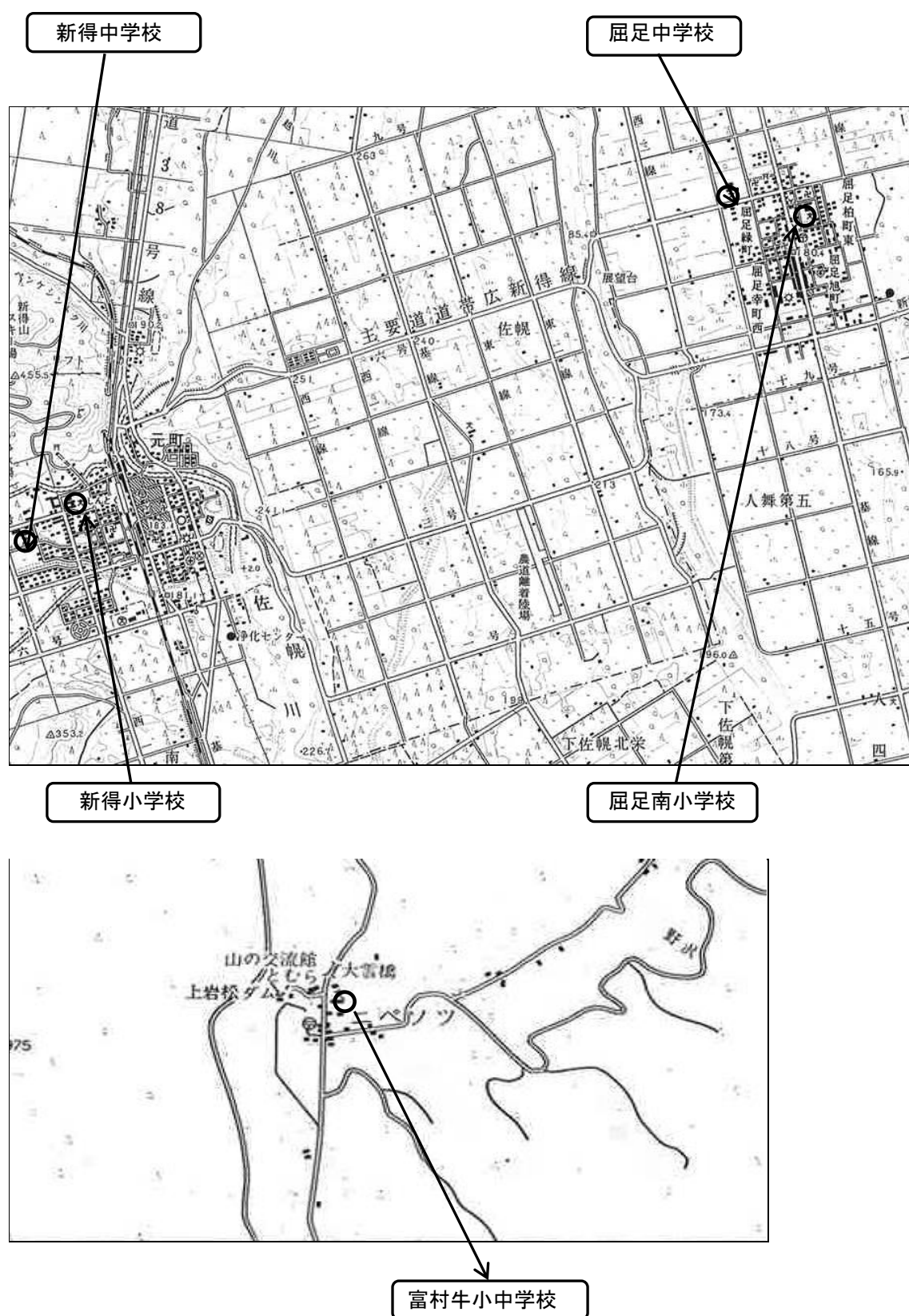
(人)

	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H 2	H10	H15	H20
小学生	2,034	2,184	1,654	1,224	1,013	964	787	591	440	385	285
中学生	927	985	1,024	744	575	440	392	341	260	178	168
合 計	2,961	3,169	2,678	1,968	1,588	1,404	1,179	932	700	563	453
	H 25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学生	280	264	255	251	247	263	259	275	272	268	266
中学生	142	141	145	140	131	124	121	117	123	125	132
合 計	422	405	400	391	378	387	380	392	395	393	398

※R1 まではこれまでの推移、R2 以降は推計



3-③ 学校施設の配置状況



3-④ 施設関連経費の推移

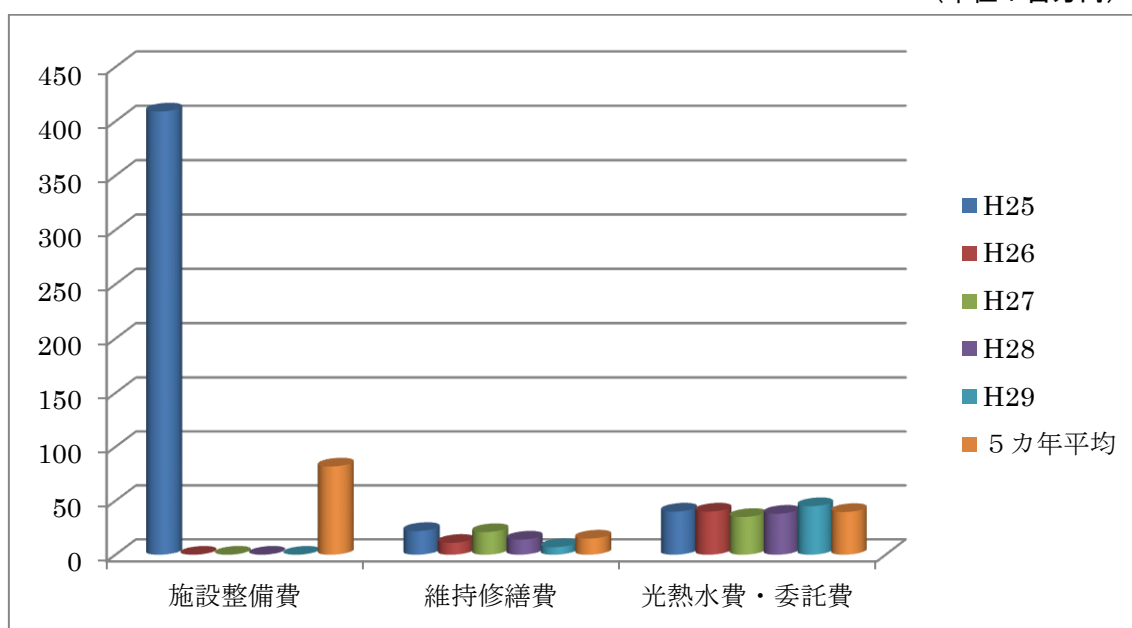
平成 25 年度からの施設関連経費の推移については、平成 25 年度に新得中学校体育館を整備したため約 4 億の投資がありますが、以降は施設整備に関する経費はありません。また、施設の維持修繕費は、年度によってばらつきがありますが、年間千～2 千万程度で推移しているほか、光熱水費・委託料はおよそ 3 千 5 百万～4 千万で推移しています。

今後においては、建て替えをしていない施設の大規模改修を行う必要があり、年次計画で投資をしていく見込みであります。また、その他維持管理に係る経費は修繕費が減少していくことが見込まれますが、光熱水費等は現状の水準で推移すると見込んでいます。

単位：千円

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	5 年平均
施設整備費	408,732	0	0	0	0	81,746
その他施設整備費	0	0	0	0	0	0
維持修繕費	21,606	10,748	20,882	14,391	3,643	14,254
光熱水費・委託費等	39,635	40,041	35,086	37,881	44,898	39,508
施設関連経費合計	469,973	50,789	55,968	52,272	48,451	135,491

(単位：百万円)

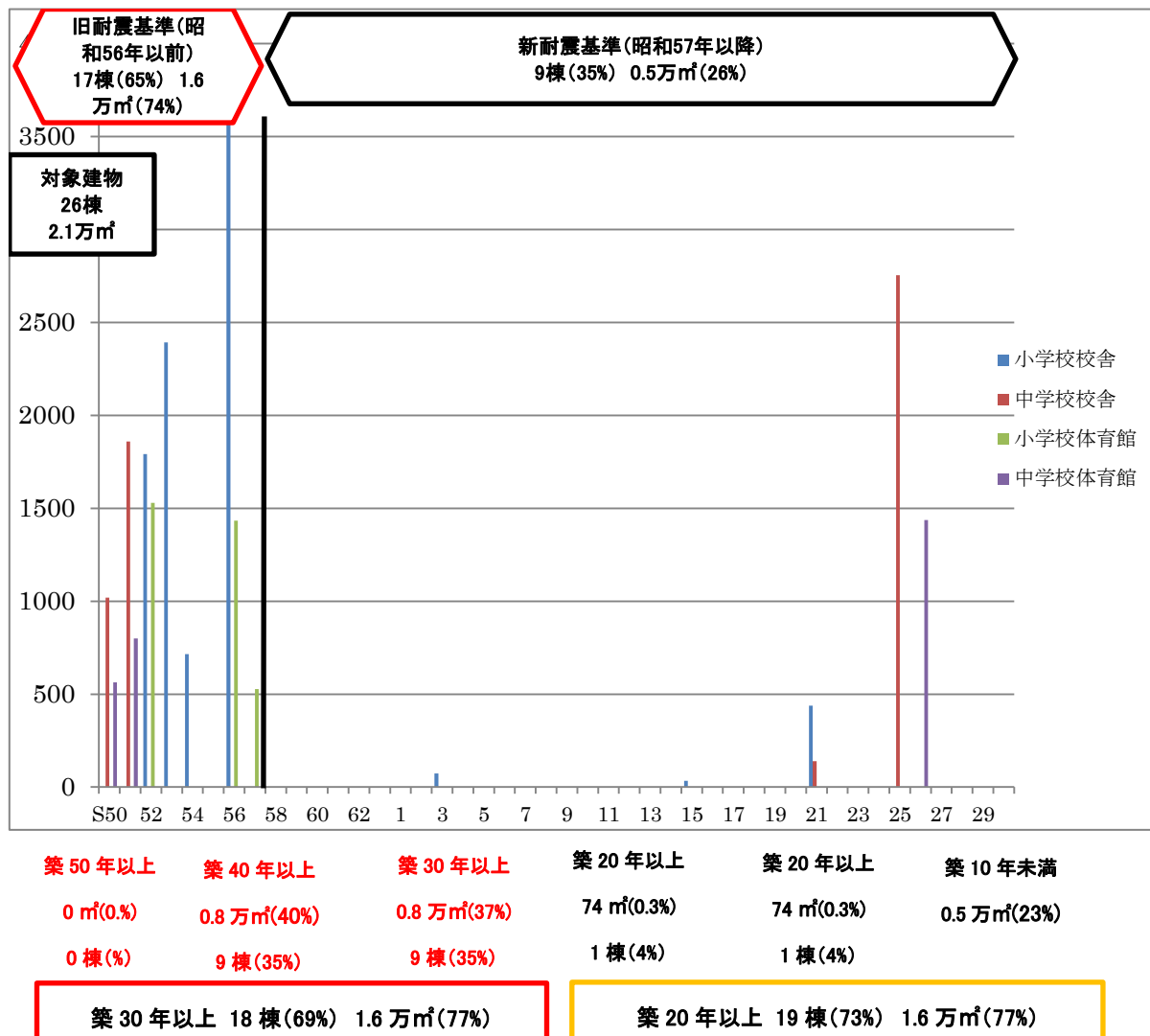


3-⑤ 学校施設の保有状況

計画対象の学校施設は、全体で5校、26棟、2.1万㎡の所有となっており、そのうち築30年以上を経過している建物は18棟、1.6万㎡で全体の77%を占めている一方、10年未満の建物は、6棟、0.5万㎡と比較的新しく、二極化の現状にあります。

今後、30年以上を経過している建物は、その状態を勘案して改築又は改修をしていく必要がありますが、躯体の耐震性が保たれているため、改築ではなく大規模改修を行って施設の長寿命化を図っていくとともに、事業費を圧縮し財政負担の軽減を検討します。

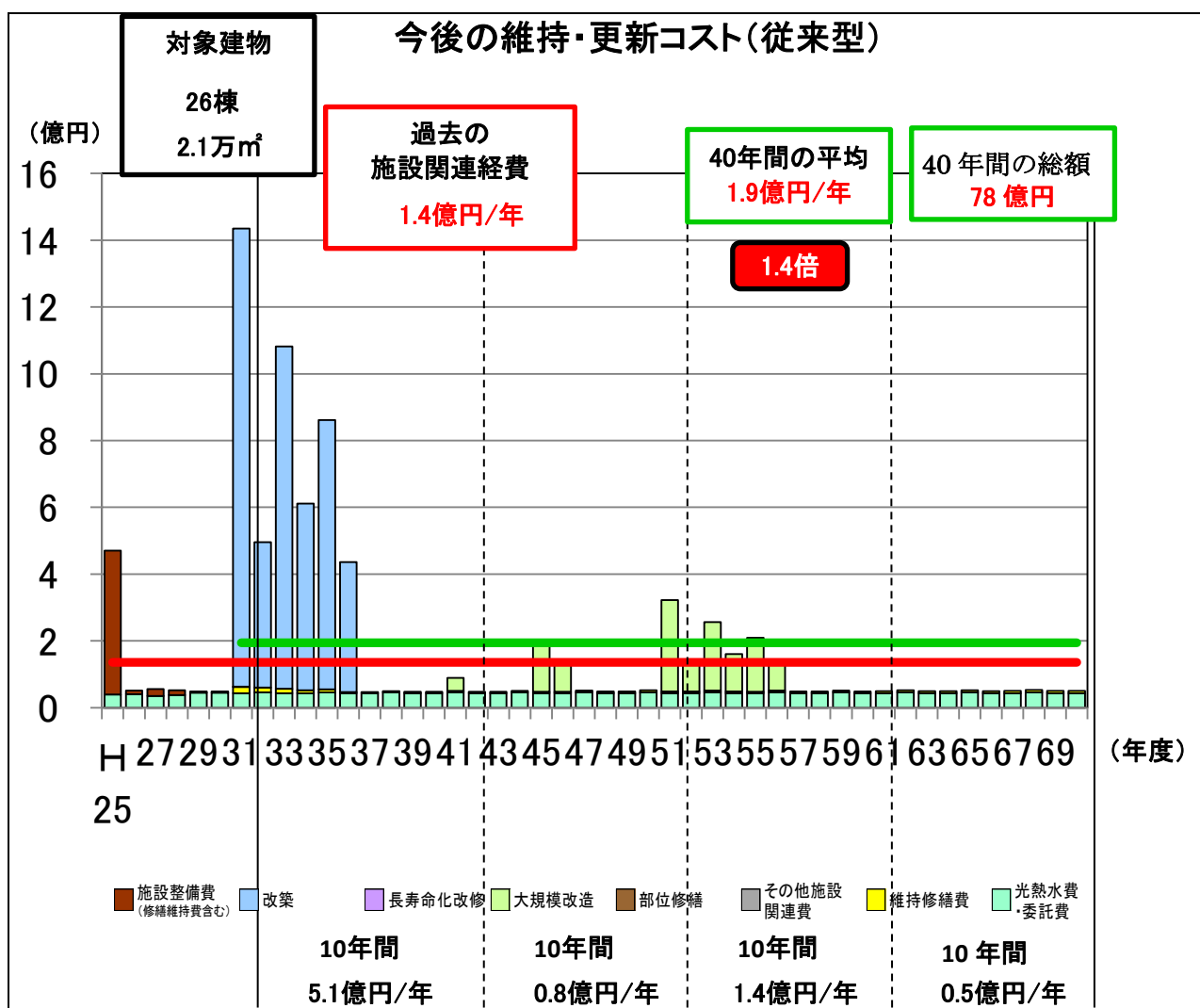
築年別整備状況



3-⑥ 今後の維持・更新コスト（従来型）

学校施設の現状を踏まえた今後の維持・更新コストについて、築40年で建て替える従来型の修繕・改修を続けた場合にかかるコストは、今後40年間で約78億円程度が必要になります。これは、直近5年間の投資的経費4億円と比較して1.9倍の費用がかかる計算となります。

このことから、本町の将来的な財政規模を推測した場合に、従来型の建て替え中心の整備を継続することは困難になると予想されます。



3-⑦ 学校施設の老朽化状況の実態

学校施設の老朽化の状況は、建物情報一覧表に記載のとおり評価しています。

評価の区分は、A：概ね良好、B：部分的に劣化、C：広範囲に劣化、D：早急に対応する必要があるとして施設全体の状況を次のとおりまとめています。

単位：棟

評価区分	A	B	C	D	計
屋根・屋上	9	3	14	0	26
外壁	8	1	4	13	26
内部仕上	7	6	13	0	26
電気設備	7	6	13	0	26
機械設備	14	6	0	6	26
計	45	22	44	19	130
割合	34.6%	16.9%	33.9%	14.6%	100%

建物情報一覧表

建物情報一覧表

色: 築50年以上

色: 築30年以上

基準 2018

区: 概ね良好

区: 広範囲に劣化

区: 部分的に劣化

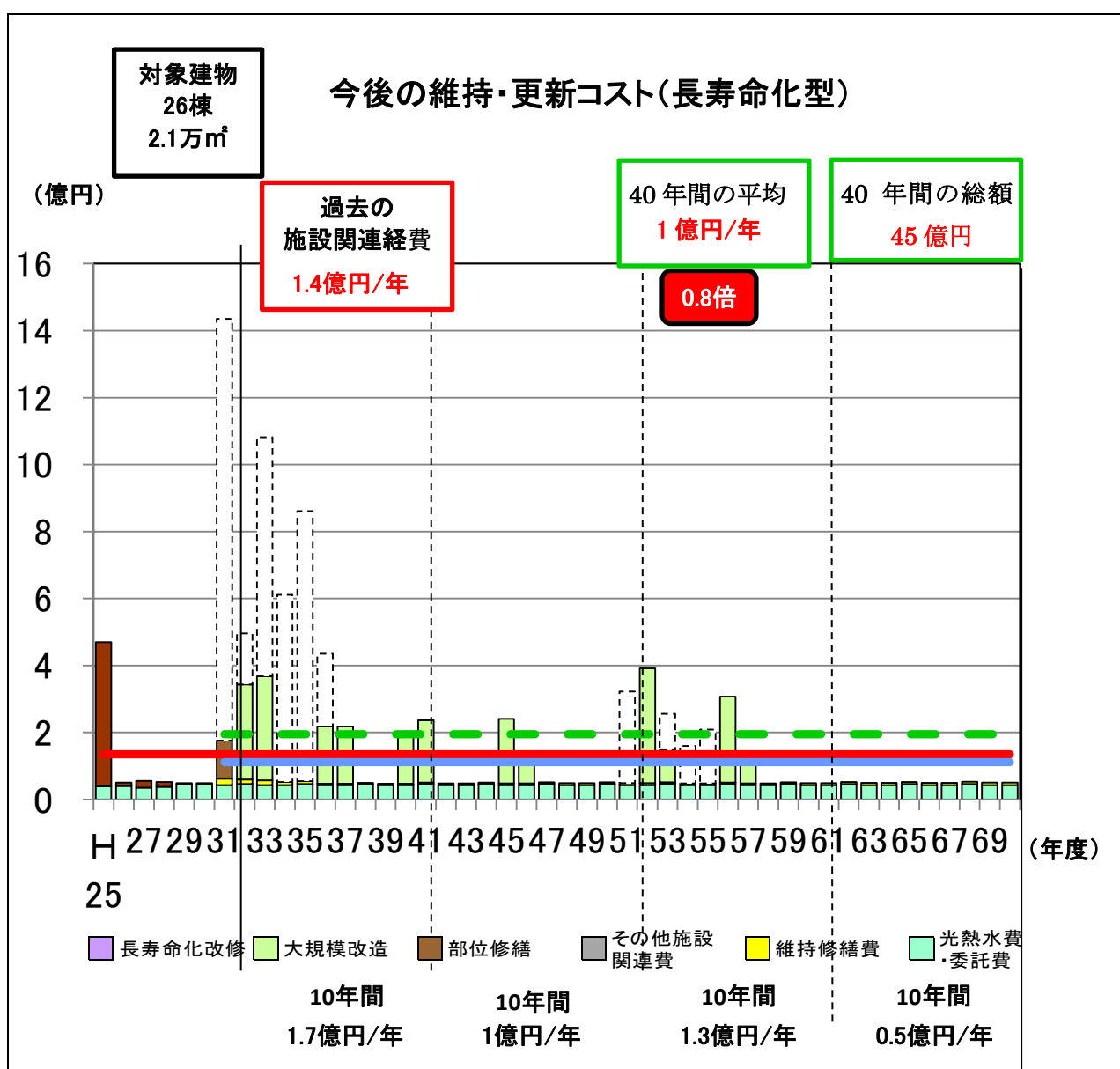
区: 早急に対応する必要がある

建物基本情報																		構造躯体の健全性						劣化状況評価					備考
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(㎡)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁	内装仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)						
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	基準	診断	補修	調査年度	評価年度							取組上の区分					
区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区	区					
1	2391	新得小学校	校舎13-1	16	1	小学校	校舎	RC	2	1,792	XXXX	S52	41	旧	済	-	H21	29.1	長寿命	C	D	C	C	A	39				
2	2391	新得小学校	校舎13-2	16	2	小学校	校舎	RC	2	1,488	XXXX	S53	40	旧	済	-	H21	26.9	長寿命	C	D	C	C	A	39				
3	2391	新得小学校	校舎13-3	16	3	小学校	校舎	RC	2	398	XXXX	S54	39	旧	済	-	H21	37.7	長寿命	C	D	C	C	A	39				
4	2391	新得小学校	校舎13-4	16	4	小学校	校舎	RC	2	320	XXXX	S54	39	旧	済	-	H21	32.5	長寿命	C	D	C	C	A	39				
5	2391	新得小学校	校舎13-5	16	5	小学校	校舎	RC	2	904	XXXX	S53	40	旧	済	-	H21	26.6	長寿命	C	D	C	C	A	39				
6	2391	新得小学校	屋体14-1	14	1	小学校	体育館	S	1	840	XXXX	S54	39	旧	済	-	H21	33.4	長寿命	A	D	C	C	A	44				
7	2391	新得小学校	屋体14-2	14	2	小学校	体育館	RC	2	890	XXXX	S54	39	旧	済	-	H21	33.4	長寿命	C	D	C	C	A	39				
8	2393	屈足南小学校	校舎15-1	15	1	小学校	校舎	RC	2	2,144	XXXX	S56	37	旧	済	-	H21	36.7	長寿命	C	C	B	B	B	62				
9	2393	屈足南小学校	校舎15-2	15	2	小学校	校舎	RC	2	1,216	XXXX	S56	37	旧	済	済	H21	40	長寿命	C	C	B	B	B	62				
10	2393	屈足南小学校	屋体17	17	1	小学校	体育館	RC	2	1,434	XXXX	S56	37	旧	済	-	H21	35.6	長寿命	C	A	B	B	B	79				
11	2393	屈足南小学校	校舎18	18	1	小学校	校舎	RC	1	300	XXXX	S56	37	旧	済	-	H21	40	長寿命	A	C	B	B	B	67				
12	2393	富村牛小学校	屋体12	12	1	小学校	体育館	S	1	328	XXXX	S57	36	新	済	-	-	-	長寿命	B	C	B	B	B	65				
13	2398	富村牛小学校	校舎18	18	1	小学校	校舎	RC	1	74	XXXX	H3	27	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	B	B	B	84				
14	2398	富村牛小学校	校舎19	19	1	小学校	校舎	W	1	34	XXXX	H15	15	新	済	-	-	-	長寿命	B	B	A	A	A	91				
15	2398	富村牛小学校	校舎21	21	1	小学校	校舎	W	1	301	XXXX	H21	9	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				
16	2398	富村牛小学校	校舎22	22	1	小学校	校舎	S	1	27	XXXX	H21	9	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				
17	2398	富村牛小学校	校舎23	23	1	小学校	校舎	RC	1	110	XXXX	H21	9	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				
18	4967	新得中学校	校舎26-1	1	1	中学校	校舎	RC	2	2,754	XXXX	H25	5	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				
19	4967	新得中学校	屋体27	1	1	中学校	体育館	W	2	1,437	XXXX	H25	4	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				
20	4968	屈足中学校	校舎1-1	1	1	中学校	校舎	RC	2	1,019	XXXX	S50	43	旧	済	済	H19	17.5	長寿命	C	D	C	C	D	28				
21	4968	屈足中学校	校舎1-2	1	2	中学校	校舎	RC	2	1,829	XXXX	S51	42	旧	済	済	H19	32.5	長寿命	C	D	C	C	D	28				
22	4968	屈足中学校	校舎1-3	1	3	中学校	校舎	RC	2	30	XXXX	S51	42	旧	済	済	H19	32.5	長寿命	B	D	C	C	D	31				
23	4968	屈足中学校	屋体2-1	2	1	中学校	体育館	RC	2	364	XXXX	S50	43	旧	済	-	H19	29.4	長寿命	C	D	C	C	D	28				
24	4968	屈足中学校	屋体2-2	2	2	中学校	体育館	S	2	794	XXXX	S51	42	旧	済	-	H19	29.4	長寿命	C	D	C	C	D	28				
25	4968	屈足中学校	屋体2-3	2	3	中学校	体育館	RC	2	6	XXXX	S51	42	旧	済	-	H19	29.4	長寿命	C	D	C	C	D	28				
26	4969	富村牛中学校	校舎9	9	1	中学校	校舎	W	1	140	XXXX	H21	9	新	済	-	-	-	長寿命	A	A	A	A	A	100				

3-⑧ 今後の維持・更新コストの把握（長寿命型）

建て替えを主とした従来型から改修による長寿命化に切り替えていくためには、計画的に機能の向上、回復に向けた修繕・改修を建物全体で行っていく必要があります。

長寿命化への切り替えにより、今後40年間の維持・更新コストは約45億円程度かかる見込みですが、従来型の維持・更新コストと比較した場合は、33億円、約42.3%の経費削減が期待されます。



4. 学校施設整備の基本的な方針等

4-① 学校施設の長寿命化計画の基本方針

本町の公共施設等総合管理計画においては、公共施設全体のマネジメントとして将来負担を推計しつつ、施設の統廃合・複合化・長寿命化を行い、地域の将来像を見据えた公共施設等の適正な配置を検討していくこととしています。

また、公共施設等の管理に関する基本的な考え方として、維持管理費の削減を図るため、修繕・更新を計画的に実施し、コスト減につながる仕様に替えていくなど将来的なコストの縮減や平準化とするための長寿命化を図ることとしています。

こうした方針の下、今後における学校施設整備の基本的な方針は、他のインフラ整備の方向性と同様に、従来型の老朽化による立て替えから、長寿命化による施設の維持を図り、施設整備のコスト低減及び平準化を進めていくことを基本とします。

本計画では、今後の学校施設管理において、築40年を目安に躯体の健全性の調査を随時実施し、大規模改修又は長寿命化改修工事を実施し、施設の耐用については80年を目安に長寿命化を進めます。また、詳細調査の結果から長寿命化が困難である場合は、施設の状況を踏まえながら築60年を目安に建て替えを検討していきます。

また、改修又は建て替え後20年を目安として、劣化や損傷が軽微な早期段階に適切な予防保全対策を実施し、突発的な不具合を未然に防ぐことで、建物の長寿命化を行うものとします。

4-② 学校施設の規模・配置計画等の方針

町内の現状は、過疎化や少子高齢化の進行により、小中学校の児童生徒数の減少が徐々に進んでいます。

町の中心である新得地区では、小・中学校が各1校の配置で、小学校の普通学級は7学級、中学校の普通学級は3学級の規模であるほか、第二集落の屈足地区では、小・中学校が各1校の配置で小学校が一部学年で複式学級となっており、学級数は4学級、中学校は普通学級3学級、富村牛地区は小中併置校で小学校が全学年複式学級で3学級、中学校は第2学年の1学級のみとなっています。

学校の規模は小規模ですが、いずれも地域文化の活動拠点や防災関連機能など各地域で重要な役割を果たしています。

学校の配置については、地理的条件や各地域における役割等を踏まえ、当面既存の施設を機能させる方針ではありますが、今後の児童生徒数の推移を想定した上で、小中一貫制度や学校の統合等の再編を検討していくことが必要です。

4-③ 改修等の基本方針

町内にある小中学校施設は合わせて5校ありますが、富村牛小中学校校舎は平成21年に、新得中学校校舎は平成25年、体育館は平成26年に改築しており、良好な学習環境の維持のため、適正な維持管理を行っていきます。

残る3校と富村牛小中学校の体育館については、約40年が経過し、これまで不具合が生じた都度、改修を行ってきましたが、全体的に老朽化が進んでおり、施設の全面的なリニューアルを行っていく必要があります。

その方針としては、耐震性を有している躯体そのものを生かしつつ、建物の実態から優先度を考慮して順次大規模改修を行っていきます。

また、学校施設の状況を随時点検するとともに、整備から一定の期間が経過し、損傷等が軽微な段階から機能の保全を図っていく「予防保全」の考え方を取り入れ、学校施設の突発的な事故や、不具合によって学校運営に支障をきたさないように努めていきます。

5. 長寿命化の実施計画

5-① 改修等の優先順位付け

現在の学校施設で40年を経過している建物は、屈足中学校と新得小学校の2校が該当し、屈足南小学校校舎及び体育館、富村牛小中学校体育館は36年～37年が経過しています。

建物の状況から、経過年数の多い施設から改修を検討していきますが、屈足中学校は小中一貫などの今後の学校の在り方等を検討する必要があるため、新得小学校を優先して大規模改修を行っていくこととし、他の2校は検討推移を考慮しながら、施設の状態も加味し、改修の優先度を定めていくこととします。

5-② 今後5カ年の実施計画

令和元年度～令和5年度までの5カ年の計画は、上記の優先度を踏まえ大規模改修を実施することとします。

事業実施にあたっては、学校施設の劣化度を踏まえ、長寿命化を図る上で必要な部分を改修することとして、実施設計を進めているほか、令和元年度及び令和2年度にトイレの洋式化を進め、平行して令和元年度から令和3年度までの3カ年計画

で新得小学校の地震補強を含めた大規模改修を行っていきます。
以降、屈足中学校及び屈足南小学校の改修を計画していきます。

6. 長寿命化計画の継続的運用方針

6-① 情報基盤の整備と活用

施設を適正に管理していくために、学校施設の基本的情報や改修等の履歴、劣化状況などを一元的に管理し、施設の長寿命化を計画的に進めていきます。

また、建築基準法第12条点検の結果なども活用し、老朽具合の状態を把握しながら予防保全型の施設管理を進めていきます。

6-② 推進体制等の整備

効果的な学校施設の維持管理のため、一定の技術的見地からの判断も必要となるため、町組織の建築部門の専門職員との連携や民間業者への委託など、長寿命化計画の効果的、継続的な運用に努めていきます。

6-③ 計画の見直しとフォローアップの方針

本計画は5年ごとに見直すことを基本としていますが、計画期間においては大規模改修を継続的に行っていく見込みであります。

各年度ごとに進捗を含めて評価し、PDCAサイクルでの管理を行いながら、適正なフォローアップを行っていきます。